

信州大学教育学部附属松本中学校 2026年 5月の様子

伝え合い、新たな「問い」が生まれる



第1回地球市民集会 「私たちの学校ではなぜボランティア活動をするのだろうか？」



総合ガイダンス 「先輩は、他のクラスは、自分たちは、総合の時間に何をしようとしているのだろうか？」



第2回地球市民集会 「地球市民に近づいていくために、今年度みんなで考えたいテーマは何だろうか？」

附属松本中学校では、日常の授業だけでなく、全校で取り組む生徒会活動や、総合的な学習の時間など、様々な場面で「問い」をもつことを大切にしています。「どうしてこうなるのだろうか？」といった素朴な問いから始まり、「本当にこれで正しいのだろうか？」といった問い直しや、「自分たちはどうすべきなのだろうか？」のような、自らの今後の行動や生き方につながるような問いが生まれ、学びや成長の原動力になっています。

そんな「問い」を大切にした学びを支えているのが「自分の言葉で伝え合うこと」です。5月は、全校で集まってひとつのテーマについて考える機会や、自分が解明したいと考えている「問い」を伝え合う機会が多くありました。皆さんが、友と言葉を交わす中で、ぼんやりと考えていたことがはっきり見えてきたり、簡単だと思っていた問題の奥深さや難しさに気づいたりする瞬間に、何度も立ち会うことができました。思わず身を乗り出して真剣に聴く姿、自分たちがこれまで考えてきたことや乗り越えてきた問題を熱く語る姿は、附属松本中学校の生徒がもっているよさです。そのよさを発揮しながら、今もっている「問い」の先に広がっている新たなステージを目指して、共に進んでいきましょう。